

日本海に遊ぶ

京都大学水産実験所職員
上野 正博

れました。このブイに
はアメリカのNASA
(航空宇宙局、NOA
A(海洋大気庁)とフ
ランスの国立宇宙開
局が共同開発したアル

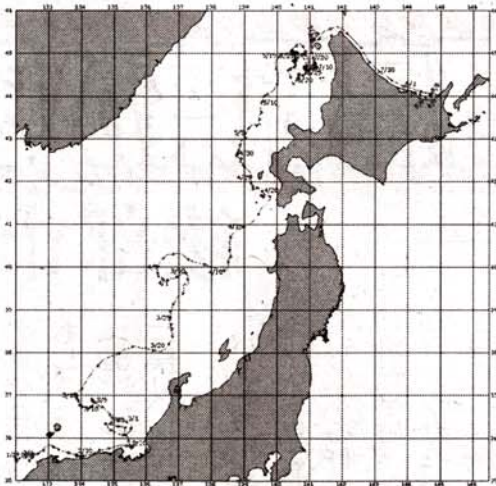
漂流 3000 キロ

邪魔をされてできない
日が多いのです。
そこで、海上保安庁
では昨年からアルゴ
システムを搭載したブ
イを流して冬の日本海
の流れを調べ始めたの
です。今年の1月末に
流されたのはその第7
号。このブイは隠岐の
南を通り抜けて山陰海
岸を一直線に東へ進み、
20日後に若狭湾に達し
ました。このまま能登
半島に向かつて流れて
いけば教科書通りなの
ですが、ここで突如反
転して北西に後戻り、
対馬暖流の流れの複雑
さを垣間見せてくれま
した。

突然動き始め、宗谷海
峡を抜けてオホーツク
海に入り、一気に知床
半島まで流れて漂着し、
半年あまりの旅を終え
たのです。
この冬も海上保安庁
ではブイ流しを計画
中。そこで、少々厚かま
しいお願いをしてみま
した。若狭湾では地元の
ヒラメがまだ産卵を始
めていない3月の終わ
りに、ヒラメの子ども
がたくさんとれるので
がたくさんとれるので
す。2月ごろから産卵
が始まる九州の方から
流されてくると予想し
ているのですが、どう
流されてくるのかは分
かりません。そこで九
州のヒラメの産卵期に
あわせてブイ流しをお
願ひした次第。快諾し
て下さったので、どん
な結果が出るか楽しみ
です。

先日、舞鶴で日本海
海洋調査技術連絡会が
開かれました。年に一
度、日本海で海洋観測
をやっている海上保安
庁や海洋気象台、水産
試験場の人たちが集ま
る情報交換会も今年で
59回目、こんなに長く
続いているのは日本海
沿岸しかないのだそう
です。面白い話題がい
くつもあったのですが、
今回は大漂流をしたブ
イのお話。

今年の1月末、島根
県の沖で舞鶴にある海
上保安学校の練習船み
うらからブイが放流さ



3千キロの大漂流をしたブイの軌跡(第8管区海上保安本部海洋情報部提供)

邪魔をされてできない
日が多いのです。
そこで、海上保安庁
では昨年からアルゴ
システムを搭載したブ
イを流して冬の日本海
の流れを調べ始めたの
です。今年の1月末に
流されたのはその第7
号。このブイは隠岐の
南を通り抜けて山陰海
岸を一直線に東へ進み、
20日後に若狭湾に達し
ました。このまま能登
半島に向かつて流れて
いけば教科書通りなの
ですが、ここで突如反
転して北西に後戻り、
対馬暖流の流れの複雑
さを垣間見せてくれま
した。

その後、蛇行を繰り返
しながら北に流れた
ブイは3カ月かかって
津軽海峡の近くへ。さ
らに北上を続け礼文島
の南側で2カ月も大休
止。7月の末になつて